

「教員相談論」における教員養成への貢献

教育学部・相模健人

1. 授業の基本情報

2019年末に中国の湖北省武漢市で確認された新型コロナウイルスは大学教育に大きな影響を及ぼし、多くの大学が遠隔授業を強いられることとなった。本報告では従来、教育学部において開講されていた「教育相談論」(通年、2単位)において遠隔授業を行い、受講学生の感想を修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(Modified Grounded Theory Approach, 木下, 2003. 以下 M-GTA)を用いて分析し、報告する。

アンケートは最終回の授業時に行った。最終回出席者 117 名を対象に有効回答数 107 名を分析対象者とした。内容は独自に作成した調査項目 10 項目について自由記述による回答を得た。M-GTA を用いて結果を分析した。

2. 授業評価の内容

M-GTA の結果から、95 概念と 17 カテゴリーを生成した。カテゴリー相互の関係から分析結果をまとめて、簡潔に文章化(ストーリーライン)した。以下にストーリーラインの要約を示す。概念を『 』、カテゴリーを【 】と表記する。

大学での授業が遠隔授業になることを初めて聞いた学生は【遠隔授業に対する不安】を感じているが、現在、新型コロナウイルスの影響下にあることで『学校でやる方が怖い』と考え、『仕方がない』と【遠隔授業はやむを得ない】と考えている。

遠隔授業を受け始めた学生は【遠隔授業の技術的な問題】に直面し、【遠隔授業の心理的な難しさ】を感じる。さらに【一人でつらい】といった『友達に会えずつらい』、『もったいない一年』、『孤独を感じる』といった困難もある。その中で学生は遠隔授業を受けながら【授業者の印象】を抱いている。

これらの困難に対し学生は【遠隔授業の技術的な対応】を行い、【ストレスコーピング】として遠隔授業を受講する学生は『みんなも

同じ』だと考え、『孤独に慣れる』ようにした。加えて学生は【受講努力】を行った。

学生は【慣れる方法】を用いることで『友達との確認が減った』。学生は【遠隔授業に慣れる】ことができた。

このように遠隔授業に慣れていく中で学生は LINE を用いた討論を行う。討論において学生は『LINE は普段から使い慣れているので便利』なので『LINE での討論が活発』となり、『文字に起こすと自分の考えが深まる』、『聴覚障がい者でも討論に参加できる』メリットや『討論内容が文字で残る』ことで復習にも活用し、【LINE での討論のメリット】を感じている。一方、【LINE での討論のデメリット】もある。

授業後、学生は【課題の大変さ】がある。

しかしながら遠隔授業を受講した学生は『スムーズな授業』、『工夫されていた授業』、『ちょうどいい課題の量』であり、『意外とできる』、『いつも通りの授業』といった【遠隔授業の手応え】を感じ、『学校に行かなくていいから楽になる』、『通学時間がなくなる』、『遅刻する心配がない』、『リラックスして受けられる』、『落ち着いて授業を受けられる』、『どこでも受けられる』、『体調が悪いときでも受講できる』と遠隔授業を活用している。また学生は『自分の部屋や顔を映さなくてよい』ことから『身だしなみを考える必要がない』という【遠隔授業の受講しやすさ】の中で『新鮮で面白い』、『集中できる』、『モチベーションを高く維持できる』と感じ、受講中は『わからないことをすぐに調べられる』、『資料が見やすい』といった【遠隔授業のメリット】を享受している。

3. まとめ

結果から学生はストレスコーピングを行いながら高い学習動機づけで受講しており、技術的な問題についての援助は必要であるが、LINE での討論を含め遠隔授業を工夫して行うことで学生の学習意欲を喚起することが出来たと考える。